

令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	アフタコロナの「新たな観光モデル提案」による社会支援
研究者所属・氏名	研究代表者：経営学部 教授 金 相 俊 共同研究者：経営学部 准教授 岡山 武史 文芸学部 教授 安 起瑩

1. 研究、開発・改良、提案目的・内容

1. 研究支援の背景

新型コロナウイルス感染拡大の影響は過去に経験したことの無い余波が待ち受けているように考えられる。第1次産業から第3次産業まであらゆる分野においてそのショックは大きい。その中でも流動人口、交流人口、関係人口の活発な往来を事業の根幹とする観光・サービス分野は甚大な影響を受けている。日本経済新聞 2020年5月21日付けの記事では、4月の訪日客が99.9%減少、ホテルや外食の客の足が遠退き、緊急事態宣言が解除されても元には戻らず本格回復は3年かかるとの声も上がっていると報じている。

各事業体は生き残りをかけた経営に取り組みなくてはならない。状況はさらに深刻さを増すと予想され、アフタコロナの観光ビジネスへの支援策については一刻でも早く手を打たなければならない喫緊のものとして表面化している。

本研究では、このような状況を踏まえ、近未来の「観光・サービス業」のポストコロナの出口戦略を探るべく、3密を回避し、持続可能かつ汎用性の高い新たな「観光モデル」を提案するものである。

2. 研究支援の内容

研究内容は、大別して「開発・提案」と「調査・検証」に分けられる。

(1) 開発・提案: ウィルス感染防止のビジネスプラン

①分散型観光モデルの開発：観光地における観光客集中度がわかるアプリを使用し、観光客の分散誘導を図ることで、感染リスクを減らす一方、観光地や観光・サービス提供機関への安定的な誘客に貢献する。

②ニッチの観光地開発による観光客の分散を誘導

これまで注目されなかった観光地を開発することで観光客の分散誘導を図る一方、地域（地方）の活性化を図る。

(2) 調査・検証: 専用アプリを使用した分散型観光モデルを実験・検証を行う。

①専用アプリ（Realstep Spot）を利用し、人気観光地、アミューズメント施設（遊園地、テーマパークなど）、観光・サービス提供機関（ホテル、旅館、飲食業）、公共交通及び主要交通機関の拠点（駅、ターミナルなど）での利用者数の状況をリアルタイムで把握することで、混雑（密集）地域や時間帯を避けて観光が可能となり、感染リスクを低下させることはもとより、快適な観光を楽しむことが期待できる。

②祭、イベント時の観光客の移動特性を分析することでニッチの観光地開発後のマーケティングのためのデータベースの構築が可能となる。ひいては関係人口を増やすことができ、地域活性化にも貢献できる。

③具体的な調査・検証

- ・Realstep Spot solution の構築
- ・イベント、大規模祭事（地域祭事を含む）の訪問客の流入経路及び主要な移動手段
- ・日ごとの訪問客現況/訪問客の特性
- ・日ごとの滞在平均時間と滞留地域
- ・訪問客の流入地域

④この研究による研究・提案は、国連のSDGs17の目標のなかの、「すべての人に健康と福祉を作る責任、使う責任」に関連付けながら持続可能な社会実現のために実行・貢献できると考えている。

2. 研究、開発・改良、提案経過及び成果

[1] 研究対象地域を「鳥取県倉吉市」に選定した理由

(1) 国の主要政策「地方創生」に適した地域

① 一般的な特徴

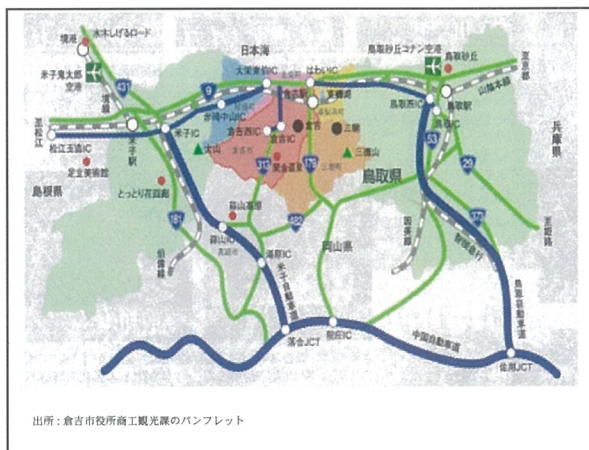
倉吉市は鳥取県の中部に位置する市である（下図参照）。市の属する鳥取県の人口は55万人程度で、東大阪市の49万人より少し多いくらいである。県庁所在地の鳥取市は19万人、もう一つの拠点となる米子市は14万人で、その中ほどにある倉吉市は4万9千人、大阪府の阪南市の5万4千人より小さな規模である（いずれも令和2年3月1日基準）。鳥取県の拠点は鳥取市と米子市に二分散しているのが県内・外と交流人口を少なくしていると思われる。情報伝達に影響力の大きい鳥取県と島根県の民間放送テレビは3社で相互乗り入れしているが、3社それぞれ島根県の松江市（TSK：山陰中央テレビジョン放送）と米子市（BSS：山陰放送）と鳥取市（NKT：日本海テレビ）と分散している。日本で唯一県境を越えて参議院選挙区が合区されているところでもある。

倉吉市は、古くから城下町としての風情漂う白壁土蔵群・赤瓦・歴史と共に培われた文化・芸術が織りなす名所・旧跡・歴史街道、また東大山山麓の白金の湯「関金温泉」や大自然の醍醐味を思う存分楽しめる体験スポットも多数ある。歴史・文化・自然・名物・地元自慢の特産品など、人情味豊かな温もりと数々の魅力あふれる街である（倉吉市商工観光課のパンフレットより転記し修正）。

しかしながら市の発展の根幹でもある交流・関係人口の伸び悩みと人口減と共に過疎が進んでいる。

② 交通面の特徴

倉吉市への交通便のアクセスをみると東京や大阪など大都市圏から他の都道府県へのアクセスよりも不便で時間もかかる特徴がある。倉吉を含む周辺地域へのアクセシビリティは容易ではない。簡単にいうと大阪からは自動車もしくは高速バスで3時間半、特急列車でも3時間以上かかる地理的、交通アクセス利便性に欠けるところである（下表参考）。



交通手段	出発地	経路	所要時間	備考
マイカー	大阪	中国道 → 鳥取JCT → 鳥取道・山陽道	約3時間半	
	大阪	中国道 → 笠倉IC → R179	約3時間半	
	岡山	中国道 → 笠倉JCT → 米子道 → 湯原IC → R313	約3時間半	
	広島	山陽・岡山道 → 笠倉JCT → 米子道 → 湯原IC → R313	約4時間	
高速バス	大阪	(1日9往復・夜行便あり)	約3時間半～5時間	
	岡山	(1日2往復)	約2時間半	
	広島	(1日2往復)	約4時間半	
	福岡	(1日1往復・夜行便)	約11時間	
鉄道	東京	新幹線(姫路駅乗り換え) 特急スーパーはくと	約5時間半	
	京都	特急スーパーはくと	約3時間半	
	岡山	特急スーパーはくと	約3時間	
飛行	東京	全日空(1日5往復) 鳥取砂丘コナン空港 → 連絡バス(1日5便)	約3時間	
	東京	全日空(1日6往復) 米子鬼太郎空港 → JR	約3時間	

出所：倉吉市役所商工観光課のパンフレット

一例で、鳥取県にとってイノベーションとも言われている関西圏からの特急列車「スーパーはくと」は、智頭急行線経由である。この路線は、陰陽連絡路線（山陰の陰と、山陽の陽）として、1922年には既に計画がなされていて、1966年に着工したが、後に国鉄再建の波の中で建設が凍結され、第3セクターとして1994年に開業したものである。鳥取自動車道も開通が遅れ、米子自動車道が先に開通したため、米子市へ行く日本交通の高速バスが、距離の短い鳥取市へ行く同じ日本交通のバスより時間がかかったほどである。現在も智頭急行線は電化がされていなく単線である。

③ 観光面での特徴

倉吉市には国の重要伝統的建造物群保存地区として指定されている打吹玉川地区をはじめ、江戸時代末期から戦前までに建てられた家屋や土蔵が多く残り、その街並みは往時の面影を残す懐かしい佇まいをみせている。また、市の南部に位置する関金温泉は約1300年前に開かれた山陰地方屈指の古湯として知られ、その無色透明無味無臭のお湯は、古くから「白金（しろがね）の湯」と呼ばれており、日本名湯100選にも選ばれている。

温泉の泉質は、神経痛、リウマチなどによいとされる単純放射能泉（ラジウム温泉）で、江戸時代には宿場町、湯治場として栄えたところである。周辺は三朝温泉、羽合（はわい）温泉、東郷温泉郷に囲まれ、世界遺産登録運動を展開している三徳山や岡山県の蒜山高原にも隣接する自然環境に恵ま

れた美しい地方都市である。このような観光資源を有するところであるが、周辺の観光地や温泉郷に押されている傾向が目立っており、通過点として位置づけられ、観光客の滞在時間は短く観光都市倉吉というイメージは薄い感がある。

(2) 観光による地域活性化を必要とする地域

倉吉市は地方創生に適する特徴を持つ以外も地域の課題である観光の入込客数が伸び悩んでおり、以下の問題点が指摘される。

①倉吉市観光ビジョンによれば、解決すべき課題として「観光客に伝わる資源の目的化、見どころを整理した魅力的な観光モデルコースの作成、観光スポットの滞在時間延伸の対策」が上げられているが、まだ十分達成されていない。

②歴史・自然・文化など数々の観光資源を持っているが、情報発信が適切に行われていないため知名度が低く、主要マーケットからの誘客に繋がっていない。

③周辺観光地に三朝温泉、皆生温泉、湯原温泉、羽合（はわい）温泉、東郷温泉など名湯が多く、温泉をテーマにした誘客に他の温泉郷に遅れをとっている。事例でいうと、前掲と同レベルの名湯とも言われていた「関金温泉」は競争力を失い2021年3月末で、第3セクターで運営する「有限責任事業組合 白金（しろがね）の湯」しか残っておらず、全温泉施設が営業をしていない状況である。

④地域連携 DMO「一般社団法人鳥取中部観光推進機構」との連携が十分に行われておらず、市の観光政策にズレが生じている印象を受ける。

これらの問題点を改善することが倉吉市の課題と考えられる。この“オール近大”新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクトは、当市の観光ビジョンでもある「持続可能な“観光まちづくり”」にも合致する点で、現状に即したものである。

[2]これまでの経過

(1) 研究地域選定と準備作業（機器購入と打ち合わせ）

①研究地域の選定：9月1日から10月31日

- ・9月3日から4日：京都府の京丹後市、鳥取県倉吉市を訪問し、本研究の可能性を打診。
- ・京都府京丹後市を中心に7市町村で構成される「海の京都 DMO」と京都丹後鉄道、そして鳥取県倉吉観光 MICE 協会を訪問し、オール近大プロジェクトの趣旨を説明し、共同での取り組み可否を検討していただき、その結果、倉吉観光 MICE 協会が協力をする事で合意に至った。

②準備作業：11月1日から11月30日

- ・11月4日から5日：倉吉観光 MICE 協会を訪問し、プロジェクトの具体的な進め方、費用の負担など詳細の打ち合わせを行った。なお、流動人口把握に用いる計測機器（リアルステップ）の設置場所、管理、運営などについても、塩川修（倉吉観光 MICE 協会マネージャー）氏と協議を終えることができた。
- ・学内においては流動人口計測機器（リアルステップ）の購入を完了することができた。

(2) 機器設置：12月1日から1月31日

①流動人口計測機器の設置：12月2日から4日

流動人口が計測できる機器（Realstep Spot 及びデバイス）を倉吉市とその周辺地域に設置した。作業は2日間にわたって行ったが、ネット環境の不具合などもあり、予定していた場所にすべて設置することができず、1月に追加作業をすることにした。

②流動人口計測機器の追加設置：1月20日から22日

12月に続いて流動人口計測機器の追加設置を行った。ネット環境の不具合を前もって改善したこともあって、作業は滞りなく行われた。予定していた26カ所すべて設置を終えて、残りの14台は、GPS信号受信が不安定な個所に補助器として並列して置いた。2月1日から28日までの1カ月間の試験運用を行い、3月からは本格的なデータを収集することにした。

(3) 新たな観光モデルの提案に向けての聴き取り調査と計測機器の点検

①聴き取り調査：2月24日から25日

試験運用中の流動人口計測機器から得られるデータを基に新たな観光モデルの提案に向けて、倉吉市の観光の実態について聞き取り調査を行った。当日は協会の3役（名越会長、岸田副会長、竹歳常務）に会って、倉吉観光の現状、課題、今後のビジョンについて詳しく聞くことができた。翌日は、関金温泉地区の体験プログラムやボランティアツーリズム関連の視察を行った。

②計測機器の点検：3月15日から16日

流動人口計測のために設置した機器の点検を行った。その結果、4カ所に不具合が見つかり、予備器に代替する措置を行った。倉吉観光 MICE 協会にも機器の稼働状況について現状を報告した。機器によるデータの収集は2021年9月までにしたいという観光 MICE 協会の要望もあった。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

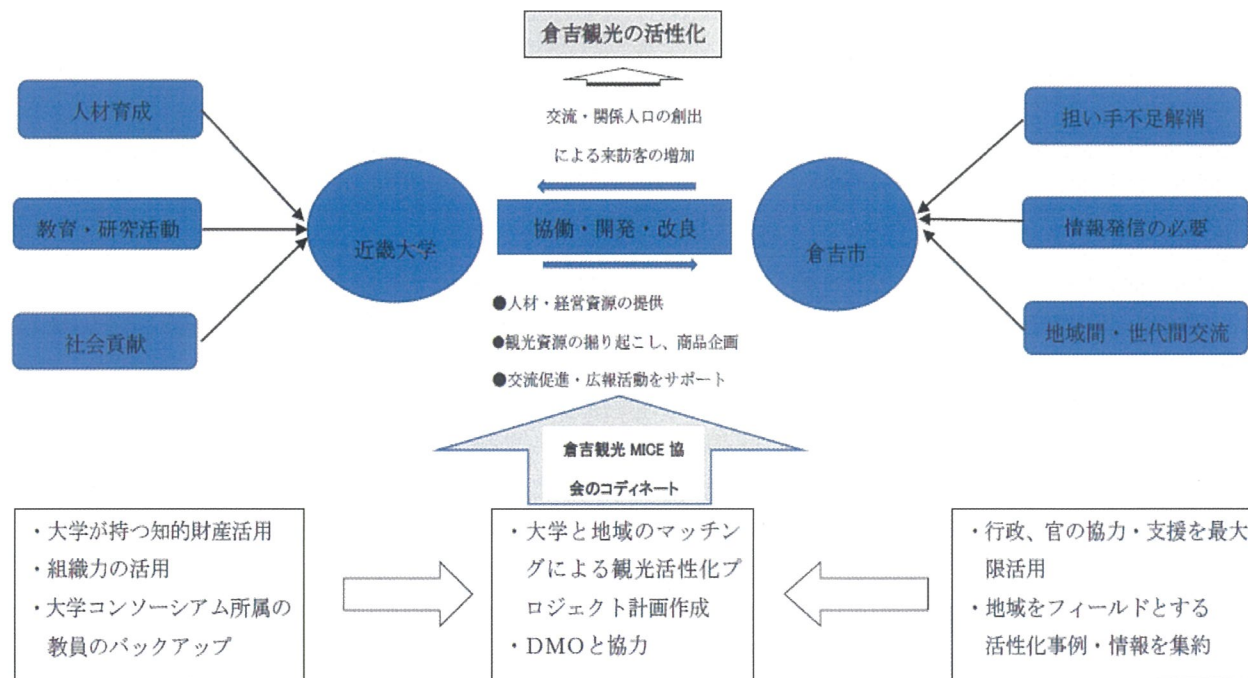
[1] 本研究の継続の必要性

(1) 地域課題の改善

本プロジェクトは、倉吉市が掲げる観光による地域活性化を推進するために、以下の概念図をもとに研究の完遂を目指す。

とりわけ、地域課題として挙げている担い手不足の解消、情報発信の必要性、地域や世代間の交流を改善する手掛かりとして観光の振興は欠かせないものと認識している。

■倉吉市の「新たな観光モデル提案」概念図(案)



目的 ●地域においては大学の知力や人的パワーを地域観光活性化に生かす、大学においては、学生の育成、研究・社会貢献の場を得る。
●地域間・世代間の交流を促進し、来訪客の増加につなげ、地域観光活性化を目指す。

しくみ ●過疎化や高齢化に伴う様々な課題を抱える地域と活動フィールドを求める都市部の大学や組織のニーズをマッチング

出所：筆者作成

(2) 観光実態調査

本プロジェクトの目的であるアフタコロナの「新たな観光モデルの提案」のための流動人口計測は順調に行われている。今後、集積されるデータの解析結果を用いて、観光の開発・改良を試みるが、現実に即した提案をするためには、市の観光振興ビジョンに据えた「実態調査」が不可欠である。その実施目的と調査内容を標記する。

【実施目的】

倉吉市の主要観光地における来訪客の増加や減少要因、また現状の観光商品の補完要素などを調査・考察することにより、当該地域の観光商品の傾向や観光地の受入れの実態を明らかにする。

【調査内容】

①観光客調査

- ・属性（発地や同行者、滞在時間、来訪回数、利用交通機関等）
- ・倉吉市の選択要因（旅行目的等）
- ・来訪時の満足度（再来訪意向等）

②外部環境調査

- ・競争力調査（立地条件、顧客動向、競合動向、主要観光地の政策支援等）
- ・倉吉市のイメージや認識等の調査

③内部環境調査

- ・倉吉市を代表するイメージや魅力等の調査
- ・地域ブランド開発のための素材発掘（歴史、文化、特産品）
- ・地域住民のホスピタリティ&ツーリズムに対する意識調査

(3) 分析及び検証内容について

①上記調査をもって、地域ブランドの素材を発掘するとともに、倉吉市における主要観光地への入込客数の増加および減少について、「強み」(Strengths)、「弱み」(Weaknesses)、「機会」

(Opportunities)、「脅威」(Threats)の4つのカテゴリーで多角的に分析する。これによって多様化する観光ニーズや環境の変化に対応できる資源の活用方法について検討する。

②本企画は、地域社会を対象に行う研究であり、集積されたデータの解析をもって成果を示すものになる。現在、機器を使ってデータを集めている最中であり、進捗度は50%ほどに留まっている。

本題である「新たな観光モデルの提案」のための意識調査は2021年4月からスタートの予定である。

このように研究は現在、途中であり、成果を具体的に示すためには、後続研究が不可欠であることを強調しておきたい。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
EATSA(ヨーロッパ・アジア観光学会)	国際学会で口頭発表	2022年6月

5. 開発・改良、提案課題の成果発表等

・本研究は、2021年10月または11月に、倉吉観光MICE協会の臨時総会において成果の発表をすることで担当者と調整中である。

・但し、研究活動が継続されない場合は2021年3月末までの流動人口データのみを解析し、報告書は略式にまとめて提出する。